カンボジア短信 ： 2016－№5（2月上・下旬）

18. MAR. 16

小島正憲

1. タイ王女専用に豪華トイレ＝450万円超、一度も使わず

カンボジアでタイのシリントン王女（60）の訪問に合わせ、王女専用に仮設の屋外トイレが推定4万ドル（約450万円）以上の費用を掛けて設置された。空調設備付きの豪華版だが、一度も使われないまま役目を終えた。トイレは広さ8平方メートルで、シリントン王女が22日にカンボジア北東部ラタナキリ州を訪ねた際に使用するため、タイ側が費用を負担して建設された。しかし、王女は2時間の現地滞在中、施設の中に入らず、外から眺めて写真を撮っただけだった。便器は既に撤去され、残った建物は地元当局の事務所に転用されるという。国連児童基金（ユニセフ）の昨年の報告書によると、カンボジアではトイレを使えない人が依然多く、農村部では6割が屋外で排せつしているとされる。

2. 未払い賃金を求めて労働者がストライキ

2／15、プノンペン Dangkor 地区にある縫製下請け工場で、50 人以上が、労務省前でストライキを行った。工場のオーナーが、多額のお金を持ち逃げして自分たちの給料を払ってくれない、と主張している。「オーナーは、10 万ドルのお金を持って逃げてしまいました。賃金のため工場の機械などを売ろうとしたのですが、別の工場からも訴えられており、売ることができません」とCambodian Rights Workers of Union Federation 代表の Chea Sophea 氏は話した。「約150 人が、先月の給料をもらえずじまいです。工場の機械を売る権利がほしくて、ストライキをしました」と話す。この工場は、大手縫製工場の下請け生産をしていたという。

3. 縫製工場で大量解雇の発表にストライキ

2／24、マレーシア国籍のオーナーが所有する Global Apparels Limited 縫製工場で、約 2000 人の労働者がストライキを行った。会社が、来月に労働者約 500 人を削減する、と発表したことが原因のようだ。Collective Union of Movement of Workers の副代表 Ham Lout 氏は、「最近半年雇用契約の満期が来た 100 人が、契約を更新されずに会社を追い出されました。それに加えて会社は、4 月までに 500 人を解雇すると言っているのです」と話した。「今朝、Global Apparels 工場の全員がストライキに参加して、100 人を会社に復帰させるように求めました。そして、これからも誰も解雇しないでほしい、と訴えました」と話した。ストライキに参加したひとり Nhem Sophana さんは、「私たちはみんな神経質になっています」と話した。NGO 団体 Solidarity Center の William Conklin 氏は、「この件については初めて聞きましたが、労働者たちが 2 年以上の勤務を経て解雇・退職となる場合、会社には一定の手当てを支払うのが普通です。2 年以下の場合は、手当てを求めても実際は支払われない場合が多いです。私たちが、期間雇用を嫌うのはこういう理由です。ゼロからの契約を繰り返させられることによって、長期雇用のメリットを受けることができません」と話しをした。

その後、解雇されていた 100 人のうち、大半の労働者に復職が認められ、2／27から仕事に戻ると、労務省が発表した。労務省が工場オーナー、労働者代表との会合の場をつくり、交渉に成功したようだ。2 年以上勤めていた 87 人の労働者が復職。労務法では2 年以上勤めた人には退職金を支払う決まりがある。「会社と労働者代表は労務省で交渉を行いました。労働者たちはストライキをやめて、2 月 27 日から仕事に戻ることに同意しました」と労務省は発表。それに加えて、会社は、4 月までに 500 人を解雇するという発表を取り消したという。

4. 日本での”インターンシップ”に政府が介入

。外務省のスポークスマン Chum Sounry 氏は、「東京のカンボジア大使館員が、日本にインターンとして入った 37 人のカンボジア人から要請を受けて、協議しました。彼らは岐阜県で、ドライクリーニングの工場で雇われています」と話しをした。インターン生らは、給料が低いこと、休みの日にも働かせられること、水道代や家賃が高いことなどを非難したという。「彼らは、賃金を今よりあげて、1 日 8 時間労働にすること、日曜は完全休日とし、強制残業をさせないことなどを要求してきました。そのため彼らの雇用者たちと話して、カンボジア人の賃金を上げること、週一の休みを取らせることなどを約束してもらいました」とSounty 氏は話した。カンボジア人は日本において、政府の行う”インターンシッププログラム”によって働く機会を得ている。もともとは、日本で労働力が枯渇している分野に海外の労働力を取り入れるために職業訓練という名目として始められたものだが、ある海外の報道記事では、訓練としての要素はうすく、長時間労働と低賃金に搾取されるのが実態だ、として伝えられたことがある。人権団体 Central の Moeun Tola 氏は、日本でカンボジア人労働者が権利侵害を受けるのは珍しいケースで、また、海外で労働しているカンボジア人たちを政府はよりサポートする必要がある、と訴えた。

5. タイからカンボジア人労働者が強制帰国

タイで違法労働していた 77 人のカンボジア人が、2／19, 強制帰国した。彼らは、南の半島で建設現場にいたところをまとめて捕えられたという。Banteay Meanchey 州 Poipet にいる国境スタッフの Sin Nam Yong さんは、「タイの警察が、タイの Chumphon という地方で彼らを発見しました、77 人は教育施設を建設する現場で働き、また、生活していました。でも、法的な書類を何も保持していなかったため捕えた、ということです」と話した。Nam Yong さんは、タイ政府は、違法で 77 人を働かせていた会社には、なんらかの対策をとると言っているという。Poipet のイミグレーションチーフ Sim Samath 氏は、「この件に関して、明らかになっていること以外は知りません。タイからは毎日何百人がポイペトを通って帰国していますから」と話した。タイで働いているカンボジア人の大半は、建設や農業のような低賃金の労働に従事しているという。タイは労働力獲得のために多くのカンボジア人を、違法でも合法でも雇おうとしている、と労務省の Ith Samheng 氏は話した。

6. 最近の外資の進出状況

・タイのドイチャン・コーヒー、カンボジア進出へ

カフェチェーン「ドイチャン・コーヒー」を展開するタイのドイチャン・コーヒー・オリジナルは、海外展開を拡大する。年内にカンボジア、モルディブ、インドでマスター・フランチャイジーを指名する計画だ。

・シンガポールのTAコーポレーション、プノンペン中心街の複合施設の分譲開始

シンガポールの建設・不動産開発会社TAコーポレーションは、カンボジア・プノンペンで建設中の複合施設「ザ・ゲートウエー」について、住居部分の約30％とオフィス部分の約40％の分譲先が決まったことを明らかにした。「ザ・ゲートウエー」は2019年完成予定で、カンボジア首相府に隣接。プノンペン国際空港や市の中心部に主要道路でつながる。土地面積は6040平方メートルで、36階建てのオフィス棟（299ユニット）と39階建ての住居棟（572戸）から成る。住居は1～3部屋タイプがあり、当初2年は住居部分で12％、オフィス部分で16％の賃貸利回りを保証。

・タイの生保バンコクライフ、カンボジア子会社計画

タイのバンコク銀行系の生命保険会社バンコク・ライフ・アシュアランスは、カンボジアに新たに子会社を設立し、保険事業を拡大する計画だ。カンボジアの大手生保カンボジア・ライフ・インシュランスに10％を出資しているが、これとは別に子会社を設立する考え。増加が見込まれる中間所得層の需要を取り込む。

以上